しんあい

季刊

2024年(令和6年) 3月20日発行　第129号　◆編集と発行　しんあい編集部

社会福祉法人
多摩同胞会
〒183-0042 東京都府中市武蔵台1-10
TEL042−367−8801
https://www.tama-dhk.or.jp/
をぜひご覧下さい！

2022年認定
くるみん
子育てサポートしています

2023年12月19日に開催した永年勤続表彰式。オンラインで52名の職員が表彰されました。

泉 苑
- 特別養護老人ホーム信愛泉苑
- 高齢者在宅サービスセンター 泉苑ケアセンター
- 府中市地域包括支援センター泉苑

緑 苑
- 養護老人ホーム信愛寮
- 特別養護老人ホーム信愛緑苑
- 府中市地域包括支援センター緑苑

あさひ苑
- 府中市立特別養護老人ホームあさひ苑
- 府中市立あさひ苑高齢者在宅サービスセンター
- 府中市地域包括支援センターあさひ苑
- 府中市高齢者住宅うらら多磨

神田事業所
- 特別養護老人ホームかんだ連雀
- 　併設　定期巡回随時対応型訪問介護事業所
- 高齢者あんしんセンター神田
- 千代田区立岩本町ほほえみプラザ
- 千代田区立かがやきプラザ相談センター

児童福祉
- 母子生活支援施設網代ホームきずな
- 母子生活支援施設白鳥寮
- 子ども家庭支援センターしらとり
- 府中市子ども家庭支援センターたっち

◆ 社会福祉法人を考える20
◆ 福祉施設のしごと　～食事～
◆ 地域の子育てを支援しています
◆ 施設だより「それぞれの一期一会」

社会福祉法人　を考える　20

～社会福祉基礎構造改革から24年　④地域の支援センターを通して～

理事長　鈴木恂子

地域の支援センターは区市の中学校区単位に設置されることになり、在宅介護支援センターから包括支援センターへと移行し、今に至っています。

1989（平成元）年いわゆるゴールドプランで高齢者の生活支援の身近な相談窓口として「在宅介護支援センター」（以下、「在支」という。）を全国一万ヶ所設置目標が示されました。1994年老人福祉法の「老人介護支援センター」（第20条7の2）として小地域に根差した相談支援・地域の実態把握、関係機関との調整、ネットワークづくり等の取組が進められました（自体体ごと、各センターごとに）。2000年の介護保険法施行により高齢者の福祉サービスは大きく変化したが在支は老人福祉法の下で継続し、総合相談、権利擁護の枠で「契約」になじまない地域の福祉課題に対応しました（自治体・各センター差あり）。2006年介護保険法に地域包括支援センター（以下、「包括」という。）が追加され、多くの自治体が在支を包括に移行し、新たに要支援者のケアプラン業務が加わり（介護予防事業の給付管理）、複雑な手続きに忙殺されています。2012年からは、地域包括システムや共生社会の実現の地域づくりのため中核的な役割を求められています。

当法人は1992年府中市の最初の在支として委託を受けました（東京都内で4か所目の設置でした）。特養や在宅サービスを背景にもつ在支として1.単に相談の窓口ではなく、相談ごとの解決までつなげること、2.施設併設の機能を生かし24時間365日受け付けること。3.在支を地域の窓口として施設全体が地域の拠点となることをめざす等府中市と協議し理解と支援を得て、スタートしました。

そして多くの民生委員の皆様の信頼と助言で育てていただき、町会自治会の協力、社協の支援をいただきました。30余年のなかで制度が動き、地域も変化するなかでも総合相談を通し、地域の現実に日々接しています（身寄りのない独居や高齢者のみ世帯の増加、金銭管理や意思決定困難、生活保護からも外れる経済的困窮者、多問題世帯、8050（高齢の親と障害をもつ子）世帯）。最近は、コロナ禍の3年間で地域力が低下し、重篤な状況に至ってから情報がつながることが多くなりました。加えてケアマネジャー、ヘルパーの減少等により、サービス・支援がすぐに届きにくくなっています。地域包括ケアシステムの充実が望まれますが、実情は深刻さが増しているように思われます。

		1989　1990　1991　1992　1993	1994　1995　1996　1997　1998　1999	2000　2001　2002　2003　2004　2005	2006　2007　2008　2009　2010　2011	2012　2013　2014	2015　2016　2017	2018　2019　2020　2021　2022　2023　2024
制度		在支全国1万ヶ所設置 目標ゴールドプラン	老人福祉法 老人介護支援センター規定	介護保険制度施行 在支は老人福祉法で継続	地域包括支援センターが介護保険法に位置付けられ 多くの在支が包括に変更	地域包括ケアシステム	日常生活支援総合事業 要支援1、2の方は自治体の事業へ	地域共生社会の実現／生活支援コーディネーターの配置
府中市のうごき		1992(H4)年1月泉苑ケアセンターに府中市初の支援センターが設置され、以降よつや苑、あさひ苑、安立園、しみずが丘、2000(H12)年ピースプラザに開設、介護保険制度施行時に6福祉圏域全てに配置された。		2003年11の中学校区に11ヶ所の在支となる。	在支の活動が定着しつつあったこと、介護保険を補完する予防活動(地域デイ、介護予防教室)が地域ごとに活性化しつつあったため、まずは市の基幹型が1ヶ所包括となり、その後順次移行した。	地域デイの利用者が限定されるなか、事業の見直しが進む	専門講座の縮小、予防活動の利用期間4か月等がすすみ自主活動が奨励される	SCが社会福祉協議会に各地域担当11名が配置となる。2024(R6)年より包括が文化センター担当圏域に再編されるとともに包括にもSC(非常勤または兼務)が置かれる見込。
	在　　支	1992年泉苑在支1号、以後よつや苑、あさひ苑、安立園		緑苑開始 市内11ヶ所の在支	市内11ヶ所の在支 全11ヶ所包括移行			
	包　　括			基幹型在支 社協→市へ	府中市直営包括1ヶ所 あさひ苑開始／市内3ヶ所 泉苑開始／市内6ヶ所 緑苑開始	市内11ヶ所	市内11ヶ所	市内11ヶ所 文化センター圏域にエリア変更
	生活支援コーディネート(SC)							社協SC 包括SC開始 社協SCと並走
	介護予防コーディネート(KC)			KC	KC	KC	KC	KC
	地域デイ		B型機能訓練	地域デイ	地域デイ	地域デイ（対象者がひきこもり、認知症高齢者に限定される・半日の活動となる）	地域デイ（対象者がひきこもり、認知症高齢者に限定される・半日の活動となる）	地域デイ（対象者がひきこもり、認知症高齢者に限定される・半日の活動となる）
	介護予防講座			介護予防教室	介護予防推進 専門講座開始　うつ予防開始	介護予防推進 講座見直し　専門講座終了	期間限定短期集中型（1講座の受講・4ヶ月で終了）	期間限定短期集中型（1講座の受講・4ヶ月で終了）
	講　　座				転　倒	転　倒／元気アップ	元気アップ	元気アップ
					尿失禁	尿失禁／メンズ	メンズ	
					認知症	認知症／脳力	脳力	
					口腔栄養	口腔栄養／健口	健口	
					うつ	うつ		
								短期集中講座終了者対象(サービスC)
	総合事業							総合事業
当法人の取り組み	法人地域公益事業					安心シニア塾	安心シニア塾 家族支援情報交換会	安心シニア塾／家族支援情報交換会 コロナ禍による休止 安心シニア塾／家族支援情報交換会
	解　　説	【在宅介護支援センターの時代】 介護保険制度開始以後との最も大きな違いは、即応性と臨時的な対応です。介護保険制度以前は契約手続が前提ではなく、在支と特別養護老人ホーム、在宅サービスセンター、ホームヘルパーがひとつながりで、在宅高齢者の支援を行っていました。緊急的な対応で、ホームヘルパーやショートステイが必要な場合にその日のうちに対応することがままありました。また継続的な支援が必要あるいは虐待等不適切な状態に陥っている方への支援は特別養護老人ホーム入所までも視野に行政に相談しながら動くことができました。		【在支と居宅の2枚看板】 介護保険制度開始に合わせ、在宅介護支援センターは居宅介護支援センターとの2枚看板を掲げて、要介護要支援高齢者の相談とサービス利用のためのケアマネジメントをトータルに担いました。泉苑、あさひ苑ともに開始時点でそれぞれ300件以上のプランを立てていました。在宅高齢者にとっては迅速に適切なサービスにつながった最も安心できた時期ともいえます。	【地域包括支援センター　開始】 すでに在支を担っていた緑苑も含め当法人3在支は地域包括支援センターに移行しました。介護プランは居宅介護支援事業所に移りました。各包括には年間5000件を超える相談と毎月100件を超える介護予防のケアマネジメント業務が加わり、時間に追われる日々となりました。	【総合事業開始】 介護人材不足の中、要支援者の通所型サービスは既存の通所事業所併設や運動特化型通所で行っていますが、訪問型サービスの受け手不足が深刻です。住民主体の生活支援サービスもコロナの影響もあってほとんど立ち上がっていない現状です。		【生活支援コーディネーターの開始】 地域共生社会の実現や、地域における住民主体の生活支援サービスを生み出すべく、各地域に配置されることになり、都内では多くの自治体が地域包括支援センターに委託開始しましたが、府中市は社協に委ね、各包括と連携が求められました。2024年度は各包括に兼務でSCが配置される予定です。 ※府中市の方針により、2024年9月末に緑苑包括が閉鎖となり、10月より地域包括支援センター白糸台が開始します。

・府中市は介護保険制度以前から在宅サービスは非常に充実していました。通所のデイサービスとともに比較的お元気な方のデイホーム事業を含め活性化していました。
・2000年以降は介護保険の横出しサービスとして地域デイや介護予防講座に引き継がれ、現在フレイルといわれる予防活動に大きく寄与し、成果を実感していました。

・2015年の制度見直しで要支援の方が保険サービスから自治体単位の総合事業に移ったことで一般高齢者のいきがい、予防活動は整理され、自主活動に移行し、以前より縮小しています。
・法人の「安心シニア塾」はその受け皿的な役割も果たしているようにも思います。

・今年度のシリーズは、2000年社会福祉基礎構造改革による社会福祉施設の質的変化を当法人の事業を通し4回にわたりまとめました。

1. 特別養護老人ホーム
2. 母子生活支援施設
3. 養護老人ホーム
4. 地域の支援センター

・介護保険を代表とする基礎構造改革は福祉を大きく変貌させ、そのひずみも顕著になった24年間でした。改めて「地域共生社会」の下、新たな福祉の再生が求められていますが、最も支援を必要とする人々をとり残さないことを基本としたいものです。

【注】在支:在宅介護支援センター、包括:地域包括支援センター、SC＝生活支援コーディネーター、KC:介護予防コーディネーター

（執筆協力・資料提供：地域支援統括責任者　清野哲男　／　編集：法人事務局　青木志乃）

福祉施設のしごと　～食事～

　当法人の高齢、児童施設では多くの職種の職員がチームで働いています。
　事業所には、介護職員、生活相談員、看護師、機能訓練指導員、調理師、栄養士、管理栄養士、保育士、支援員、事務職員等、様々な職種の職員がいます。いずれもそれぞれに必要な資格を保有している職員です。
　どの職種もわかったつもりでも、実際はどのような業務を行っているんだろうかと疑問に思われませんか？
　そんな疑問にお応えして今回は、高齢施設の食事係（管理栄養士、栄養士、調理師）の仕事をご紹介します。多摩同胞会の５拠点の高齢者施設には全施設に厨房が設置され、職員は全員が法人職員です。新しい調理法のレシピにも、永いこと受け継がれている法人の味は家庭の味としてひきつがれています。

多摩同胞会の食事

　多摩同胞会では食事を作る部署を『食事係』といいます。
ただ単にお年寄りの食事をつくるだけではなく安全に食べやすく家庭の味をモットーに３食、そして食にまつわる行事など春・夏・秋・冬と季節を感じるものを準備したり五感（視覚・嗅覚・触覚・味覚・聴覚）のケアに意識的に取り組んでいます。
　ご家族の差し入れの果物などもご利用者が美味しく安全に召し上がることができるように皮を剥いて切るだけではなく、時には食べやすいようにミキサーにかけてなるべくご家族の意向に添うかたちでお出しすることやお看取りの方には好きだったお酒やアイスクリームなどを唇に塗布するために用意することもあります。

介護保険制度導入で変わる食事づくり

　高齢者の生活の場であった時代には大きな柱のひとつとして「食事」が位置づけられていました。介護保険制度以前は入所されているご利用者もお元気で活動的な方が多く、１食の量は今よりずっと多く食事形態もほとんどが常食でした。行事食には街のお店にも負けないような豪華な食事を用意してきました。

　ところが介護保険制度導入より食事をつくる部署が保険外の考え方になってしまったのです。業界の８割は委託業者が厨房を運営するようになりました。多摩同胞会は食事が生活の大きな柱という考えに変わりはなく「直営のまま」現在に至っています。介護保険導入後、食材費はご利用者負担となり低い設定になりました。
その後、さらに調理コストも下がりどのように運営していこうかと深刻でした。2004年に新調理法を導入し、業務整理を行い職員数も以前より少なくし食事提供できるようになりました。そして20年経ち、今では各施設の特徴を生かした新調理法が定着しています。

　千代田区内のかんだ連雀と岩本町ほほえみプラザは食数が少なく、そこで働く職員は１日２人で調理と盛り付けを行なっているので新調理法のひとつである真空調理を実施しています。煮物や炒め物の材料と調味料を入れた真空パックの袋ごと加熱し冷却して保存する調理法で2004年の導入以来継続しています。

　府中市内の泉苑・緑苑・あさひ苑は以前、新調理法の真空調理を行なっていましたが、食数が多く１日に働く職員の数が多いので新調理法の中でもクックチルという方法を用いています。このクックチルという調理法は、ほぼ毎日行いますが３日先の献立の中から通常器具で調理後冷却して保存します。この方法により日々の職員の働き方が平準化しました。どちらの方法も衛生管理は厳しくHACCPに基づいて行われています。
　調理器具も各施設特徴があります。以前はガス調理のみでしたが現在はガスの回転窯や鍋での調理のほかにスチームコンベクション、IH調理器など色々なものが使われています。冷却の仕方も流水や氷水からブラストチラーによる冷却に変わりました。

（府中事業所統括係長　管理栄養士　竹内友恵）

高齢者の口から召し上がっていただくために食事形態は大事

　常食が多かった時代から現在はキザミ食やペースト食の方が増えました。キザミ食は口の中でバラつき飲み込みづらいという課題がありましたが、その課題を解決すべくムース食ソフト食などが登場しました。凝固剤も色々研究され、でんぷんが多いものに使用するものやふんわりムース風に仕上がるものなどがあり情報を共有しながら使用する凝固剤を使い分けています。行事食には市販のムース食などを交えながら見た目でも楽しめるものと試作を繰り返しながら提供に繋げています。

～2004年導入新調理システムは食事係の強い味方です～

New System

【真空調理】

真空包装

スチームコンベクション加熱

ウオーターチラーで冷却

フリーズの場合は更に
ブラストチラーで冷却

【クックチル】

スチームコンベクションで加熱

ブラストチラーで冷却

冷蔵保管

～いろいろな調理方法～

現在は真空調理やクックチルと組み合わせて食事づくりが行われています。

回転釜での調理

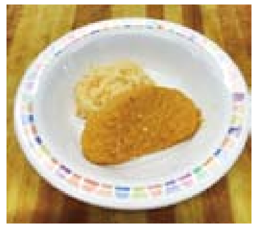
スチームコンベクションでの調理

ガス火での調理

IH調理器での調理

日々の食事

常食


ムース状のキザミ食

行事食

常食

ムース状のキザミ食

地域の子育てを支援しています！

2023年（令和5年）4月に子ども家庭庁が創設され、こども基本法がこども施策を社会全体で総合的かつ強力に推進していくための包括的な基本法として施行されました。この法律は、全てのこどもが将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指し、こども政策を総合的に推進することを目的としています。

多摩同胞会で運営する児童福祉施設においても、地域の子育てをいろいろな角度から支援しています。今回は、きずな、しらとり、たっちの取組をご紹介いたします。

ショートステイ事業を開始しました。　きずな

きずなでは、2023年度あきる野市の委託によりショートステイ事業を開始しました。ショートステイとは、保護者の方の入院やひとり親世帯の保護者の出張など、ご家族が一時的にお子さんと過ごすことができないときに7日間まで宿泊でお預かりする事業です。利用期間中はお子さんが通っている学校や保育所等への送迎を行い、日中はいつもと同じ生活です。

対象は、小学1年生〜6年生（兄弟に未就学児がいる場合は一緒にお預かりします）のお子さんです。事業の開始に向けて、しらとりでショートステイの経験のある職員を中心に環境整備も含めて準備しました。利用したお子さんからは「また来たい！」と言ってもらい、安心して過ごしてもらえたようで職員もホッとしました。今後もよりよい事業の運営に向け、職員一同努めていきます。

母子支援員（社会福祉士）　髙橋風子

“子育て講座”　開催しています！　たっち

たっちで行っている様々な子育て支援事業のなかに、子育て講座の企画運営があります。子育て家庭に向けた講座では、参加者同士で子育ての悩みを共有し、講師から子どもの発達や子育てについて学びます。

また、地域の子育て支援ボランティアに向けた養成講座も行っています。講座受講後には、たっちのボランティア登録をして活動に繋がる方もいます。子育て家庭だけではなく、地域の子育て支援に興味がある方々への情報発信も、子育て支援につながると思っています。

これからも、地域全体で子育て支援をしていけるように講座を継続していきます。

総合受付（社会福祉士）　恩智温子

しらとりカフェ始めました！　しらとり

しらとりひろばでは2023年度から「しらとりカフェ」をスタートしました。未就学児を子育て中のママ・パパたちがおしゃべりしたり、のんびりティータイムを楽しんだりできる時間となっています。

「しらとりカフェ」ではおしゃべりのきっかけになったり、同じものが好きな人同士集まったりできるようにと毎回テーマを決めています。10月に開催した第1回目は「0歳児ママ・パパ」、翌月は「ディズニーだいすき」をテーマにしました。

ほかにも様々なイベントを毎月開催しています。親子で一緒に絵本や季節の歌を楽しんだりできる「集いの日」。マットやトンネル、ソフトブロック、電車など子どもたちが大好きなものが月替わりで登場する「〜しようの日」。季節にちなんだ工作に親子で挑戦できる「つくろう」。誕生月には手形をスタンプした誕生日カードをプレゼントします。

ひろばに遊びにきた子どもたちが「楽しい」「また来たい」と感じられるとともに、ママ・パパたちに「ほっとできた」「リフレッシュできた」と感じていただけるような場所となるように、今後も様々なことに取り組んでいきたいと思っています。

地域支援ワーカー（社会福祉士）　田澤夢紬

施設だより

それぞれの一期一会

2023年度は普段の生活に戻り楽しみが増えた一年でした。新年度に向け新たな出会いや各施設の取り組みをお伝えします。

きずな　人生の交わり

とある学童の何気ない日常の様子を写真に収めました。

この日のおやつはみんなでガスコンロを囲みマシュマロを焼いて食べました。危険予測をしながら、みんな恐る恐るマシュマロが焦げないように絶妙な距離感で手を伸ばします。写真の中に色々な子ども達の手が集まり、まるで共同作業をしているように感じました。

新しい年度を迎える中で、引っ越しを目前にしている子どももおり、子ども達にも大きな変化が訪れます。偶然のタイミングで、きずなで出会ったのは何かの縁があると思います。

一人の子どもの人生にしてみたら本当に短い期間の関わりになりますが、それでもこの一瞬の交わりが今後の子ども達の人生の一部として繋がっていってもらえたらと思います。

心理療法担当
（臨床心理士・公認心理師）　飯田　紫織

しらとり　成長の季節

しらとり学童では1月から個別学習の時間が始まりました。今までも集団での学習時間はありましたが、苦手な分野を丁寧に説明したり、できた時に褒めたりと「子どもたちとしっかり関わりたい」という思いから個別学習支援の準備を進めてきました。

初回の学習ではそれぞれの目標を一緒に考え、それを基に学習を進めています。

「漢字が苦手だから頑張りたい」と自ら発案し、それ以降一生懸命に漢字の学習に取り組んでいる子がいます。

他にも多くの子が目標に「漢字」を挙げています。ある子に理由を尋ねると、「もうすぐ4年生になるから3年生までの漢字は完璧に覚えたい」と頼もしい回答が返ってきました。

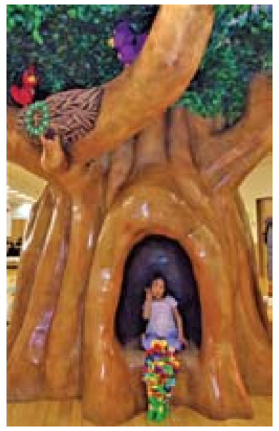
新年度に向けて、学年が上がるだけでなく、子どもたちの内面もしっかり成長しているのだということに気づかされました。

学童担当（社会福祉士、保育士）　宮城朝日

たっち　たくさんの思い出

出会いと別れの季節となりました。

たっちの交流ひろばでは、この春から小学校に就学するためたっちを卒業するお子さんとのお別れがやってきます。大きく成長したお子さん達を見ていると、小さな頃とは異なる遊び方で工夫しながら上手に遊んでいます。



先日、4月から小学生になるお子さんがブロック遊びをしていました。完成した作品を見てびっくり！たくさんの想像力と工夫がつまっていました。

小さな頃から見守ってきたスタッフは「こんなに大きくなって…」「こんなことも出来るようになって…」とお子さんや保護者の方と話していました。

とてもさみしいですが、卒業するお子さん達の成長を願いつつ、これからひろばに遊びに来るお子さんや保護者の方との出会いを楽しみにしたいと思います。

地域支援ワーカー　中村綾花

かがやき

大きな出会い

私は、かがやきプラザに異動してからこの3月で丸5年となります。千代田区の行政や社会資源、地域も全くわからない中、不安も大きい状態からのスタートでした。

異動してから一年程経過した頃、前任者が異動となり、Aさん一家とは支援で一度、お会いしただけという認識でしたが、『比嘉さんが担当ならば』とのことで、担当をさせて頂くことになりました。

それから何度もお話しを繰り返すうちに、抱えられている困りごとを一緒に考えられるような関係となりました。最初は私を含め、4人5脚でしたが、少しずつ色々な関係機関と繋がり、今はチームが形成されるほどです。

この出会いは、私にとってはとても大きなもので、今後もこのチームに支えて頂きながら、Aさんたちが地域で生活が継続できるよう支援に努めていきたいと思っています。

相談員（社会福祉士）　比嘉　敦恵

連　雀

集いの場、ふたたび

かんだ連雀の一階は、以前は映画や囲碁、体操など様々な活動が行われ、地域の方の共有スペースとして活用されてきましたが、コロナ禍によって一般の方の立ち入りが難しい状況が長く続きました。

ようやく2022年（令和4年）の4月から一階で認知症カフェ「神田はあとカフェ」を月一回、毎月第2土曜日の午後に再開して現在も開催しております。

参加者も顔触れが変わり、また一からの再出発ですが、認知症のお話というより「地域で皆さんがいきいき暮らすための情報発信と共有の場」になるようイベントや教室など試行錯誤を重ねています。

かんだ連雀が再び、地域の皆さんの笑顔が行きかう場所になれたらと思います。

あんしんセンター神田相談員

（社会福祉士）　松永秀幸

岩本町

ご利用者の交流もふかまる1年

2023年5月に「新型コロナウイルス感染症」が第5類感染症の位置づけになったことで、ほほえみプラザでも様々なことにおいて制限緩和を行いました。主に面会、見学や体験、ボランティアの来館、懇親会開催、地域交流や、全体での行事開催などです。

そんな中、ご利用者同士の交流も再開しました。デイサービスとグループホームのご利用者の間でも、麻雀好きが集まって麻雀卓を囲む姿もみられるようになりました。皆様、昔取った杵柄でしょうか？無言でジャラジャラと始めます、時折、悔しがったり、喜んだり、こっちだよとフォローしあったり。こんな光景がこれからどんどん戻ることを願っております。

センター次長　（介護福祉士）五十嵐 容子

あさひ苑

新しい春、笑顔とともに

昨年あさひ苑は30周年を迎えました。新しい春を迎え、職員一同、身が引き締まる想いです。

コロナも5類へと移行され、少しずつ生活が元に戻ってきました。お食事の席の仕切りも無くなり、会話の機会も多くなりました。ご家族と一緒にできる行事も増えてきています。夏の納涼祭、年末のお餅つき大会には、多くのご家族の方がご参加いただき、楽しい時間を共有することができました。

居室のあるフロアでの面会も可能になり、笑い声もきかれます。

2024年を迎え、ご体調に気を付けながら、たくさんの行事や、催しを行って笑顔あふれる春にしていきたいと願っています。

ホーム担当　（看護師）　菱沼千陽

泉　苑

ご利用者の喫食状況の確認をより丁寧に

毎日ご利用者の食事介助をされ、喫食状況の変化を察知する介護職の皆さんから、食事係へ様々なご利用者の情報が集約されます。私たち食事係は、それらの情報を踏まえ、細大漏らさず、しかも適時適切に、提供するお食事を調整していきます。おいしいお食事を提供することはもちろんですが、なによりもご利用者のみなさんにとって安全で、安心なお食事を提供することが絶対だからです。

今年度はご利用者の健康状態を食の面からさらに改善していくために、介護職員からの間接的な情報ではなく、食事係が直接的にミールラウンドをより丁寧に実施し、ご利用者の喫食状況等の記録を充実させてきました。まだまだ不首尾のところは少なくないですが、介護職との連携をいっそう密にして、柔軟に対応できるよう次年度はさらに努めてまいります。

食事係（調理師）　磯貝　宏

緑　苑

人との繋がりの大切さ

ここ数年、感染症予防の為、施設間の交流を控えていましたが、今年度は感染対策をしながら、職員の交換研修を行いました。研修の目的は、調理技術や提供方法を学ぶことです。

各施設で研修内容を決めて、他施設の食事係の職員からの参加も募集して行います。

今回は「本格チャーハン」を学ぶため、かんだ連雀の調理師に講師を依頼し、緑苑で実施しました。

ご利用者にもこの緊張感を味わっていただきたかったので、当日は各フロアにライブ配信で映像を流し、皆様に参加していただきました。

出来上がったチャーハンはとても美味しくご利用者・職員ともに大好評でした。

久しぶりの交換研修を通じて、人との繋がりの大切さを改めて実感しました。

食事係（栄養士）　永井　智

ニュースミニミニ ～泉苑～
社交ダンス

1月4日、高校生のペアがデイサービスを訪れ、社交ダンスを披露してくれました。青いキラキラしたドレスとタキシードを着た2人が登場し、ご利用の皆様はすっかり魅了されました。2人は数多くの大会で優秀な成績を収めているそうです。ご利用者も職員もこんなに迫力のあるダンスを近くで見るのは初めてで見惚れてしまい、自然と拍手が沸き起りました。

また、ダンスの合間に簡単なステップを職員に教えてくれました。私たちは至って真剣にステップを踏んでいたつもりなのですが、独特の間の取り方になかなか慣れず、ご利用者は職員のぎこちないダンスに大笑いされました。

（通所介護　岸　伸年）

ボランティア紹介 ～岩本町ほほえみプラザ～
ヘルマンハープ琴和

ヘルマンハープ琴和の皆様をご紹介いたします。

ヘルマンハープは、1987年ドイツ人の農場主ヘルマン氏によって、ダウン症の息子さんの為に開発されました。五線譜が読めなくてもメロディーが奏でられる楽譜システムで、誰でも簡単に弾けるバリアフリーのハンドメイド弦楽器です。

そして琴和は、2017年4月千代田区社会福祉協議会主催のボランティア講座をきっかけに設立。区内の福祉施設やサロンに訪問し優しいハープの音色を届けています。演奏だけでなく楽器にふれる機会もつくってくださっています。これからも末永くよろしくお願いいたします。

（通所介護　木田幸江）

ボランティアの御協力ありがとうございます

（敬称を省略させていただきます）

赤井あけみ　板垣理恵　井上智美　江川昭子　大間洋子　おはなし夢くらぶ　梶田佳子　菊池和彦　きずなの手・江戸川　具嶋郁子　黄美華　小林わか子　小柳亜樹子　近藤豊子　すみれ会　相馬礼子　高石稔　高倉祥子　髙橋ヤヨイ　滝沢冷子　田中えりか　田中夏希　田村知江子　千代田テコンドークラブ　坪山恵理　栃谷さき　中田由香里　中村千代子　根釜洋子　根深正子　長谷川和子　美化tube　比留間洋子　FluteQuartet 澄笛音　ヘルマンハープ琴和　外村温仁　三門正史　Mr.マック　三輪孝子　村井福子　柳谷夏見　脇山令子

（2023年12月～2024年2月）

御寄贈・御寄付ありがとうございます

（掲載を可とされた方のみのお名前です。敬称を省略させていただきます）

石坂成雄　大沢良三　株式会社ガイア　木村清子　一般社団法人cornerstoneI・SHI・ZU・E　子ども食堂なな　公益財団法人資生堂子ども財団　浄土宗八王子組青年会　全国食支援活動協力会　NPO法人ソシオキュアアンドケアサポート　中山寿美　西尾あかね　JFA国内競技運営部　JFA国際競技運営部　日本出版販売株式会社　一般社団法人バンクフォースマイルズ　平野恵子　末日聖徒イエス・キリスト教会　松本勝衛　明治安田生命（相）千代田支社明和営業所　VTCUBE JAPAN株式会社　三菱広報委員会

（2024年12月～2024年2月）

介護に関するご相談は無料ダイヤルで！

● 泉苑　老後支援24時間
0120－6540－24

● あさひ苑　福祉にっこり24時間
0120－2942－24

法人ウェブサイトはこちら　Facebook 更新中　採用情報サイトはこちら

編集後記 ～2024年の春は…～

春の陽射しや自然を感じながら子どもたちとの散歩を楽しみたいと思います。
（しらとり　阿部泉妃）

春にまたひとつ歳を重ねるので、素敵な大人になれるように精進します。
（たっち　恩智温子）

チャレンジした資格を無事取得して、合格パーティーができていますように！
（きずな　髙橋風子）

春に誕生日を迎えるので、断捨離し、気持ちよく新年度をスタートできるようにしたいです。
（かんだ連雀　曲瀬朋未）

春を感じにドライブに行きたいです。
（岩本町ほほえみプラザ　玉城多美子）

今年2歳になる子どもとあちこちお出かけしようと思います。
（かがやきプラザ　松浦秀和）

異動で通勤時間が短くなり、電車で本を読む時間がなくなってしまったので、2024年度は本を読む時間をつくる！
（泉苑　内田亮輔）

長男が私の母校である中学校に入学します。親同士も同級生が多いのでちょっとした同窓会になりそうです。
（泉苑　堀内賢治）

先が見えない状況の中、何が本当なのかを見極めながら生活しているかも。
（あさひ苑 佐藤知也）

満開に咲いている桜を見ながらの優雅な時間を過ごしたいです。
（あさひ苑 千代田俊治）

今春、家族がリスタートします。母としてパートナーとして応援していきます。
（緑苑　鈴木律子）

娘がピカピカの一年生になるので桜の木の下を一緒に歩きたいと思います。
（緑苑　森正幸）

決算準備で慌ただしい春ですが、お花見を楽しみたいと思います。
（事務局本部　西郷加代子）

子育ての卒業が近づき、今後の時間の使い方を楽しく考える節目の春です。
（事務局本部　青木志乃）

勤続36年目となる4月です。何か新しいことを始めてリフレッシュしたいと考えています。
（編集長　上野廣美）

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

VEGETABLE OIL INK